

# 経済・金融 フラッシュ

## 貿易統計 13年4月

～輸出は米国向けを中心に持ち直し

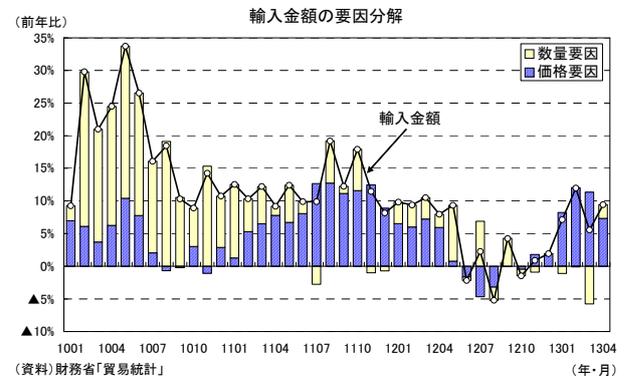
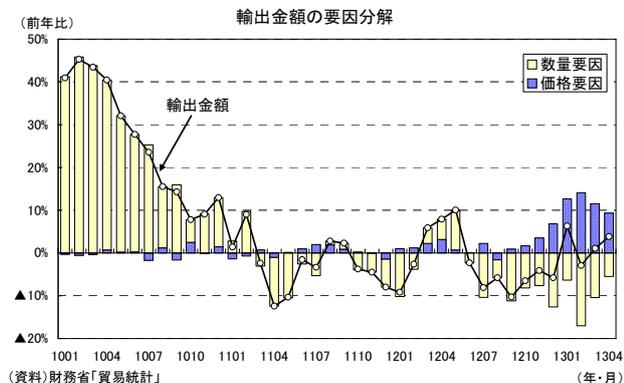
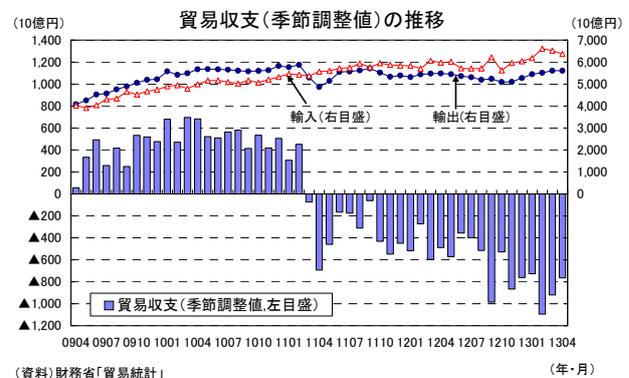
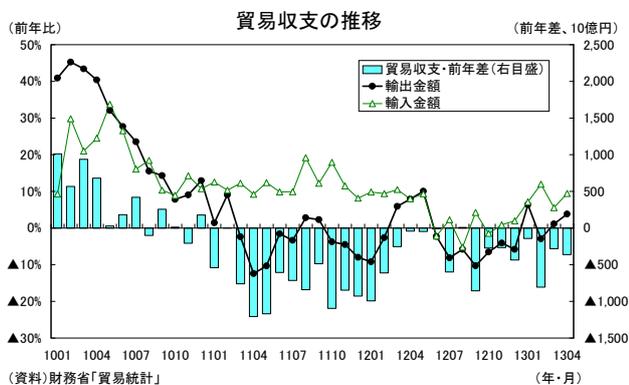
経済調査部門 経済調査室長 齋藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

### 1. 貿易赤字(季節調整値)は2ヵ月連続で縮小

財務省が5月22日に公表した貿易統計によると、13年4月の貿易収支は▲8,799億円と10ヵ月連続の赤字となり、赤字幅は事前の市場予想(QUICK集計:▲6,200億円、当社予想は▲6,211億円)を上回った。輸出入とも前月から伸びを高めたが、輸入が前年比9.4%(3月:同5.6%)と輸出の伸び(前年比3.8%、3月は同1.1%)を大きく上回ったため、前年に比した貿易収支の悪化幅は前月よりも拡大した。

輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比▲5.3%(3月:同▲9.8%)、輸出価格が前年比9.6%(3月:同12.1%)であった。輸入の内訳は、輸入数量が前年比2.0%(3月:同▲5.5%)、輸入価格が前年比7.3%(3月:同11.7%)であった。



季節調整済の貿易収支は▲7,644億円と26ヵ月連続の赤字となったが、3月の▲9,198億円から

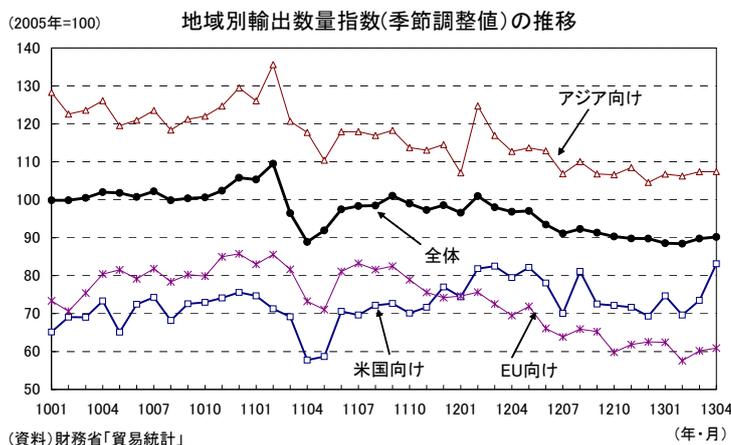
は赤字幅が縮小した。季節調整済の貿易赤字は依然として高水準ながらも過去最大となった2月(▲10,941億円)からは2ヵ月連続で縮小した。輸出は前月比0.0%(3月:同1.6%)と横ばいにとどまったが、輸入が前月比▲2.4%(3月:同▲1.3%)と2ヵ月連続で減少したことが貿易赤字の縮小に寄与した。昨年12月頃から円安基調が続く中、これまではいわゆるJカーブ効果から貿易収支は悪化傾向が続いていたが、ようやく円安が金額ベースの貿易収支の改善につながり始めた。

## 2. 米国向け輸出が自動車を中心に好調

4月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比4.5%(3月:同▲10.5%)、EU向けが前年比▲12.6%(3月:同▲16.4%)、アジア向けが前年比▲4.9%(3月:同▲7.7%)となった。季節調整値(当研究所による試算値)では、米国向けが前月比13.1%、EU向けが同1.2%、アジア向けが同0.0%、全体では同0.5%であった。

景気が堅調に推移する米国向けが円安の追い風もあって自動車を中心に高い伸びとなっている。米国向け輸出数量指数の水準(季節調整値)はリーマン・ショック後では最も高い水準にまで回復した。一方、EU向けはここにきて若干持ち直しているものの依然として水準は低く、中国向けが日中関係悪化の影響が長引いていることもあり、自動車を中心に低迷が続いていることから、アジア向けもほぼ横ばい圏の動きが続いている。

1-3月期のGDP統計では、輸出が前期比3.8%の増加となり、4四半期ぶりに成長率の押し上げ要因となったが、円安による押し上げ効果がさらに拡大することにより、4-6月期も輸出は堅調に推移する可能性が高い。



輸出は米国向けを中心に持ち直しの動きが明確となっており、季節調整済の貿易収支もようやく改善に向かい始めた。ただし、個人消費を中心に強めの動きとなっている国内需要は、緊急経済対策の効果顕在化、消費税率引き上げを前にした駆け込み需要などから先行きも堅調に推移することが見込まれるが、このことは輸入の増加につながる。このため、13年度中の貿易赤字の縮小ペースは緩やかなものにとどまることが予想される。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。